

協働事業の実施に向けて

～平成24年度協働事業提案に基づく提言～

平成24年11月

柏市協働事業提案選考委員会

「平成24年度協働事業提案に基づく提言」について

本書は、平成24年度の協働事業提案制度の結果及び既存事業の見直しの会議に基づき、来年度実施すべき協働事業について、選考委員会から柏市へ提言するものである。

* * * * *

今年度の提案制度は、次のようなスケジュールで運用された。

4～5月	提案事業の募集
7月5日	選考会 (提案のあった4件のうち、3事業が選考通過)
8～9月	調整協議 (選考通過した3事業について、事業のブラッシュアップ、または協働の仕組み構築のための協議を実施。提案者、担当課、協働コーディネーター、協働推進課(事務局)が協議に参加)
10月7日	既存事業の見直し会議 (平成22年度選考委員会からの提言により制度化。採択～事業実施から5年経過し、現在も継続されている事業について再評価し、今後の事業に活かしていくために実施。実施団体、事業担当課、協働コーディネーター(オブザーバーとして参加)、選考委員会、事務局(協働推進課)が参加)
10月11日	調整協議報告会 (調整協議の結果を選考委員会に報告)

今年度は、3件の事業が選考を通過した。

うち2件は、約2か月間の調整協議を経て、協働事業として成果を十分期待できるものとなったため、来年度事業としての実施を提言する。

またもう1件は、社会的課題の根本解決を図るため、協働での仕組みづくりに継続して取り組むことを期待し、併せて本書に記載する。

また、既存事業の見直しにおいては、今後の事業実施に対する建設的な意見が出された。

来年度以降の事業に反映されるよう、検討されたい。

目 次

1 選考会通過案について	…… 1 頁
2 既存事業の見直しについて	…… 3 頁
3 選考会・報告会及び既存事業の見直しを終えて (小松孝之委員長)	…… 7 頁

■協働事業提案選考委員名簿（◎委員長，○副委員長）

◎ 小 松 孝 之	株式会社ちばぎん総合研究所 受託調査部長
○ 安 藤 雄 太	法政大学現代福祉学部兼任講師
宮 坂 いち子	(特活)ホスピスケアを広める会 理事長
佐 藤 和 裕	JOBAN アートラインプロジェクト柏実行委員会 前事務局長
福 井 信 行	市民公募委員
金 指 奈緒子	市民公募委員
常 盤 勝 則	柏市 企画部企画調整課 主査
高 橋 直 資	柏市 地域づくり推進部協働推進課 課長

■協働コーディネーター名簿

松 清 智 洋	柏市民活動センター マネージャー
松 永 敏 明	元協働事業提案制度・市民公益活動補助金選考委員（市民公募委員）

1 選考会通過案への提言

4件の提案のうち、選考会を通過した3件の提案について、提案者と関係部署、事務局、協働コーディネーターの4者間で調整協議が実施された。

去る10月11日に、これまでの調整協議に関する報告を受け、その結果を踏まえて当該3件の協働事業の実施を市に提言することとした。

①	提案事業名	カシニワ制度を活用した地域住民による「オープンガーデンの会」の確立
	提案団体名	balloon
	事業関係課	都市部 公園緑政課
②	提案事業名	柏 ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム
	提案団体名	柏 ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム
	事業関係課	生涯学習部 文化課
③	提案事業名	住み慣れた地域でのその人らしい暮らしをサポートする見守り事業
	提案団体名	(特活)VAIC コミュニティケア研究所柏センター
	事業関係課	保健福祉部 高齢者支援課

選考及び調整協議の結果概要

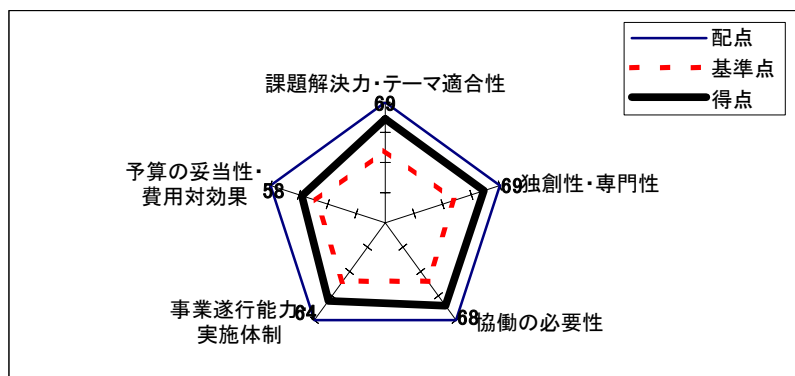
①カシニワ制度を活用した地域住民による「オープンガーデンの会」の確立

1 市や社会の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢社会を迎える柏市で、住民同士が支え合いながら、お互いのできないことを補完し合うコミュニティを強化していく必要がある。 ○本事業では、今後重要な役割を果たす地域交流の場として「庭」に着目し、「カシニワ制度」を活用した交流拠点の創出、さらにはそれをマネジメントする住民組織の設立を目指す。 ○現在、「カシニワ制度」は認知度が低く、登録件数も少ないままであるが、地域を支える交流の場としての役割を打ち出すことで、より多くの住民に関心を抱いてもらうことを狙いとする。 ○また、コミュニティのための場とすることで、住民同士が主体的に協力し合い、個人の庭であっても助け合いながら手入れをしたり、公共の緑の管理も積極的に行ったりする環境を作り、地域の景観の維持・向上にも貢献するものと考えている。
--------------	---

2 事業の概要	<p>○1年目は「カシニワ制度」の中のオープンガーデンに着目し、関心のある住民がオープンガーデンを体験しながら、その魅力や楽しさ、地域コミュニティへの貢献などを理解できるプログラムを年間通して実施する。</p> <p>○さらには、それが住民主体で持続されるように、「オープンガーデンの会」を設立し、地域住民が協力し合いながら、オープンガーデンの普及・管理を行っていく体制を目指し、コーディネートしていく。</p>																																																						
3 なぜ協働が必要か	<p>○プログラムの展開には、モデル地区に入り込み、住民と目線をそろえて議論、イベントの実施を進めていく必要があり、そういった行政では対応しきれない部分を、ワークショップなど住民とのまちづくり活動の経験がある当団体が担う。</p> <p>○また、プログラムの過程での議論から、「カシニワ制度」が持つ課題、修正すべき点を見つけ、より住民にとって意味のある、使いやすい制度とするための提言を示すことにも、当団体の役割があると考えている。公園緑政課と共に取り組めることは、「カシニワ制度」の発展において非常に意味がある。</p> <p>○一方で、自治会との連携や大々的な広報は、行政がより効果的に行うことができ、本事業の実施には、当団体と公園緑政課の協働が不可欠であると考えている。</p>																																																						
4 事業経費 (調整協議を踏まえた額)	<p>【概算事業経費 1,681,386円】</p> <table border="1" data-bbox="478 1077 1401 1912"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額 (単位：円)</th> <th>積算根拠 (数量、単価など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費</td> <td>1,057,000</td> <td>時間単価 1,000円×7時間 / 1日</td> </tr> <tr> <td>業務計画書作成</td> <td>14,000</td> <td>2.0人日</td> </tr> <tr> <td>対象地区での実施</td> <td>938,000</td> <td>2地区</td> </tr> <tr> <td>企画・計画</td> <td>(70,000)</td> <td>10.0人日</td> </tr> <tr> <td>広報資料作成</td> <td>(126,000)</td> <td>18.0人日</td> </tr> <tr> <td>企画運営</td> <td>(742,000)</td> <td>106.0人日</td> </tr> <tr> <td>報告書作成</td> <td>84,000</td> <td>12.0人日</td> </tr> <tr> <td>打合せ協議</td> <td>21,000</td> <td>3.0人日</td> </tr> <tr> <td>直接経費</td> <td>544,320</td> <td></td> </tr> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>(4,320)</td> <td>720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)</td> </tr> <tr> <td>謝礼金</td> <td>(40,000)</td> <td>10,000円×2人×2地区</td> </tr> <tr> <td>広報資料印刷費</td> <td>(240,000)</td> <td>(1,700枚+1,000枚)×3セット</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>(100,000)</td> <td>ワークショップ・イベント備品等</td> </tr> <tr> <td>イベント用備品</td> <td>(100,000)</td> <td>テーブルセット等 50,000円×2地区</td> </tr> <tr> <td>報告書作成費</td> <td>(60,000)</td> <td>報告書1部, 概要版(4頁)1,000部</td> </tr> <tr> <td>消費税</td> <td>80,066</td> <td>小計 1,601,320円に対して</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,681,386</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠 (数量、単価など)	人件費	1,057,000	時間単価 1,000円×7時間 / 1日	業務計画書作成	14,000	2.0人日	対象地区での実施	938,000	2地区	企画・計画	(70,000)	10.0人日	広報資料作成	(126,000)	18.0人日	企画運営	(742,000)	106.0人日	報告書作成	84,000	12.0人日	打合せ協議	21,000	3.0人日	直接経費	544,320		旅費交通費	(4,320)	720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)	謝礼金	(40,000)	10,000円×2人×2地区	広報資料印刷費	(240,000)	(1,700枚+1,000枚)×3セット	消耗品費	(100,000)	ワークショップ・イベント備品等	イベント用備品	(100,000)	テーブルセット等 50,000円×2地区	報告書作成費	(60,000)	報告書1部, 概要版(4頁)1,000部	消費税	80,066	小計 1,601,320円に対して	計	1,681,386	
区 分	見積額 (単位：円)	積算根拠 (数量、単価など)																																																					
人件費	1,057,000	時間単価 1,000円×7時間 / 1日																																																					
業務計画書作成	14,000	2.0人日																																																					
対象地区での実施	938,000	2地区																																																					
企画・計画	(70,000)	10.0人日																																																					
広報資料作成	(126,000)	18.0人日																																																					
企画運営	(742,000)	106.0人日																																																					
報告書作成	84,000	12.0人日																																																					
打合せ協議	21,000	3.0人日																																																					
直接経費	544,320																																																						
旅費交通費	(4,320)	720円×6.0人回 (柏-柏の葉往復)																																																					
謝礼金	(40,000)	10,000円×2人×2地区																																																					
広報資料印刷費	(240,000)	(1,700枚+1,000枚)×3セット																																																					
消耗品費	(100,000)	ワークショップ・イベント備品等																																																					
イベント用備品	(100,000)	テーブルセット等 50,000円×2地区																																																					
報告書作成費	(60,000)	報告書1部, 概要版(4頁)1,000部																																																					
消費税	80,066	小計 1,601,320円に対して																																																					
計	1,681,386																																																						
5 参考 (選考の結果)	<p>(1) 選考結果 8名の選考委員会において5つの評価項目 (配点10点, 全委員計80</p>																																																						

点, 合計400点) で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	基準点	得点
課題解決力・テーマ適合性	80	48	69
独創性・専門性	80	48	69
協働の必要性	80	48	68
事業遂行能力・実施体制	80	48	64
予算の妥当性・費用対効果	80	48	58
合計	400	240	328



(2) 選考委員会のコメント

- カシニワ制度は、まちづくり全体の手法・モデルではなく、景観創出に係るひとつのツールですが、ガーデニングを通じて、現在希薄になっている地域コミュニティの再構築を図ろうとしている点は、大変興味深く、効果的な取組であると考えます。
- 提案者は、団体構成員の多くが大学・大学院生ですが、地域に入り込み、住民意向を把握しながら一緒に活動する実績もあり、事業の実現性と発展に大変期待を持ちました。
- 提案者のように、実力がある若者の団体が、行政と協働しているということを発信することで柏市の良いアピールになると思います。
- 提案事業を推進するにあたっては、モデル地区におけるキーパーソンを見つけ、信頼関係を構築することがとても重要になります。

(2) 調整協議にむけて

- 今回の提案では、これまでじっくり関係を築いてきた地区とは異なり、1年間である程度の結果を出すことが求められます。担当課・関係課とよく連携し、特に、モデル地区の選定は慎重に行うことが肝要です。
- また、26年度以降の事業の展開や予算の確保（事業の継続性）についても、併せて検討してください。

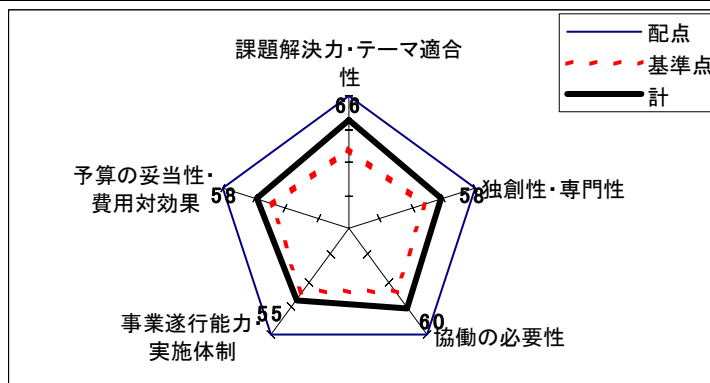
6 参考（調整協議での変更事項）

- モデル地区を2つに絞り、各地区10～12回程度の勉強会・ワークショップ・イベントを繰り返す。
- 1年目は庭付きの戸建て住宅街を対象を絞り、柏市の中でも高齢化が進んでいる柏ビレジ地区と、一方で若い世代が入ってきている手賀の杜地区をモデル地区とし、世代による庭やまちへの意識の差、コミュニティのあり方の違いに着目しながら進めていく。

	<p>○年度末には各地区での取り組みを冊子とし、本事業の魅力を発信し、他地区の住民にも関心を抱いてもらい、本事業を普及させるための1つのツールとする。</p> <p>○また、2年目以降に集合住宅での地域の庭づくりに着手することを視野に入れる。</p>
<p>7 参考（報告会での意見）</p>	<p>○数値目標の達成とともに、当事業を実施する過程で様々な人や団体とのネットワークを構築し、その関係性を継続・発展させることも重視して欲しい。</p> <p>○将来的には、新住民と旧住民の交流など、様々な地域コミュニティの課題解決のツールとなることを期待したい。</p> <p>○成果報告書を作成することなので、積極的に公開・還元してほしい。成功事例を情報発信することで、カシニワ制度自体も全市的に周知・普及していくことが期待される。</p> <p>○大学生・若者中心の団体から、本件のような先進的な協働事業が提案されること自体が、柏市ならではの特性であり、都市イメージの向上に大きく貢献する。このような協働を、市をあげて成功させることが重要である。成果のみならず取組経過を記録し、若者・学生と行政の協働のモデルケースとして、市民と庁内に紹介していくことが望まれる。</p>

②柏ALWAYS「私とまちの物語」プロジェクトチーム

1 市や社会の抱える課題	<p>○柏市には膨大な写真資料があり、市民ボランティアの協力による整理に追われている。</p> <p>○柏市の歴史を市民に知ってもらうためにも、その活用・発信が望まれる。</p>																																													
2 事業の概要	<p>○写真展</p> <ul style="list-style-type: none"> *文化祭（20点程度のキャプション付き写真パネルの展示） *単独写真展（80点以上のキャプション付き写真パネルの展示） <p>○市民向け学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> *単独写真展開催に合わせ期間中にDVDの録画を見せたり、写真の読み取りや背景の説明を行う。 																																													
3 なぜ協働が必要か	<p>○市では、資料の整理で手一杯であり、活用・発信する事業を実施する余裕がない。</p> <p>○市民むけの写真展を実施した実績のある当団体に関わることで、市民に対し、効果的な発信ができる。</p>																																													
4 事業経費 (調整協議を踏まえた額)	<p>【概算事業経費 292,100円】</p> <table border="1" data-bbox="480 860 1394 1630"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額 (単位： 円)</th> <th>積算根拠（数量，単価など）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消耗品費</td> <td>128,100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>貼りパネル</td> <td>(54,400)</td> <td>2,720円×20枚</td> </tr> <tr> <td>印画紙（光沢紙）</td> <td>(8,000)</td> <td>4,000円×2冊</td> </tr> <tr> <td>印画紙 (フォトプリントロール)</td> <td>(29,400)</td> <td>14,700円×2メートル</td> </tr> <tr> <td>印画紙（マットロール）</td> <td>(6,300)</td> <td>6,300円×1</td> </tr> <tr> <td>事務用消耗品</td> <td>(30,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使用料</td> <td>10,000</td> <td>長尺プリンター</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>154,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>編集</td> <td>(67,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>印刷</td> <td>(6,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>パネル制作</td> <td>(18,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>展示</td> <td>(59,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習会</td> <td>(4,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>292,100</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	見積額 (単位： 円)	積算根拠（数量，単価など）	消耗品費	128,100		貼りパネル	(54,400)	2,720円×20枚	印画紙（光沢紙）	(8,000)	4,000円×2冊	印画紙 (フォトプリントロール)	(29,400)	14,700円×2メートル	印画紙（マットロール）	(6,300)	6,300円×1	事務用消耗品	(30,000)		使用料	10,000	長尺プリンター	人件費	154,000		編集	(67,000)		印刷	(6,000)		パネル制作	(18,000)		展示	(59,000)		学習会	(4,000)		計	292,100	
区 分	見積額 (単位： 円)	積算根拠（数量，単価など）																																												
消耗品費	128,100																																													
貼りパネル	(54,400)	2,720円×20枚																																												
印画紙（光沢紙）	(8,000)	4,000円×2冊																																												
印画紙 (フォトプリントロール)	(29,400)	14,700円×2メートル																																												
印画紙（マットロール）	(6,300)	6,300円×1																																												
事務用消耗品	(30,000)																																													
使用料	10,000	長尺プリンター																																												
人件費	154,000																																													
編集	(67,000)																																													
印刷	(6,000)																																													
パネル制作	(18,000)																																													
展示	(59,000)																																													
学習会	(4,000)																																													
計	292,100																																													
5 参考（選考の結果）	<p>(1) 選考結果</p> <p>8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点，全委員計80点，合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="596 1783 1347 2069"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>基準点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題解決力・テーマ適合性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>事業遂行能力・実施体制</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>400</td> <td>240</td> <td>297</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配点	基準点	計	課題解決力・テーマ適合性	80	48	66	独創性・専門性	80	48	58	協働の必要性	80	48	60	事業遂行能力・実施体制	80	48	55	予算の妥当性・費用対効果	80	48	58	合計	400	240	297																	
評価項目	配点	基準点	計																																											
課題解決力・テーマ適合性	80	48	66																																											
独創性・専門性	80	48	58																																											
協働の必要性	80	48	60																																											
事業遂行能力・実施体制	80	48	55																																											
予算の妥当性・費用対効果	80	48	58																																											
合計	400	240	297																																											



(2) 選考委員会のコメント

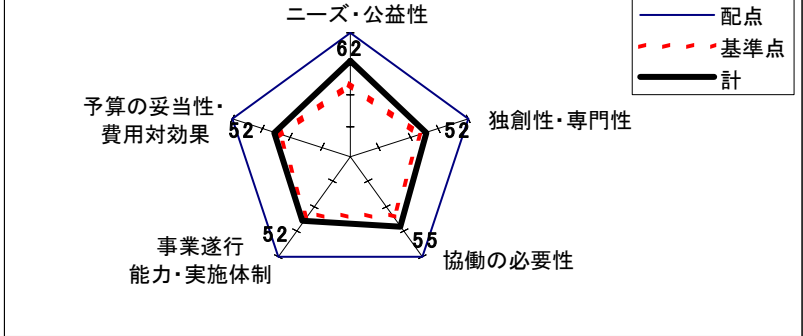
- 柏市はどのような発展を遂げてきたのか、市民に関心を持ってもらう上でも、史料整理は重要な事業であると思います。
- 単なる史料整理の下請けになるのではないかと懸念もありましたが、「市民への還元」「精度の向上」「埋もれている写真の発掘」を、市と協力して行うということが確認できたため、協働事業としての意義を感じました。
- 単発の委託業者ではなく、柏市において地道な活動を続けてきた貴団体が関わることで地域性を尊重した整理と情報発信に期待します。

(2) 調整協議に向けて

- 現在の人員では負担が大きいため、多くの市民を巻き込む工夫・体制を考えてください。直接事業に関わることで、より理解が促進されることと考えます。
- 提案の中で内部向けに検討されている学習会は、市民向けに実施してください。そうすることで、貴団体の活動の情報発信と理解促進及び新しいボランティアの確保につながるものと考えます。
- 提案者は、単に史料整理を行うだけでなく、ボランティアのコーディネート役（後継者の育成）も担うことをしっかり認識してください。
- 貴団体のメンバーや上記ボランティアに対しては、交通費（1000円）程度の謝礼を支払えるよう予算計上してください。貴団体の発展と持続的な活動のために必要なことです。

6 参考（調整協議での変更事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○当初年1回で考えていた写真展を、年2回実施とする。市民への発信の機会を多く持つ。 ○写真展に合わせ、市民向け学習会を開催。新規ボランティアの獲得にも努める。
7 参考（報告会での意見）	<ul style="list-style-type: none"> ○市民への発信の機会を多く持つことは良いこと。さらに興味・関心を持ってもらえるよう、展示方法等に市民公益活動団体ならではの工夫をして欲しい。 ○子どもに対する周知も大切な取り組み。教育委員会との協働である機会を活かし、学校と連携した事業についても検討して欲しい。

③住み慣れた地域でその人らしい暮らしをサポートする見守り事業

<p>1 市や社会の抱える課題</p>	<p>○柏市の平成23年10月現在高齢化率は20.0%であり、今後も急速に高齢化が進み、超高齢社会がやってくるとされている。（「第5期柏市高齢者いきいきプラン21」より）それに伴い、要支援・要介護高齢者や認知症高齢者の増加も予想され、高齢者が地域において自立して暮らし続けることを支援するための環境整備が大きな課題となっている。</p> <p>○今日、地域福祉の主体は地域住民とされている。しかし、町会や地区社協によって、地域福祉推進への取り組みの進捗に大きな違いがある。また、団塊世代の地域でのボランティア活動への意欲は高く、それを地域コミュニティ作りにつなげる仕組み、コーディネートする仕組み作りが求められている。</p>																												
<p>2 事業の概要</p>	<p>○行政が主導し、地縁型組織と目的型（テーマ型）組織のそれぞれの団体を巻き込んだ、新しい地域福祉のプラットフォームづくりを進める。</p> <p>○モデル地区を設定し、現在、地縁組織を中心に行われている見守りシステムにおいて、NPOがどのような役割を果たせるか具体的な取り組みの中で検証していく。</p>																												
<p>3 なぜ協働が必要か</p>	<p>○地域福祉には様々な団体関わっており、これらを1団体、または行政だけで有機的に連携させることは難しい。</p>																												
<p>4 事業経費（調整協議を踏まえた額）</p>	<p>○具体的な取り組みが決定していないこともあり、今年度の予算要求は行わない。</p> <p>○今後の協議の中で、費用が発生するのか、その場合どのような形で負担をするのか、そしてどのように全市的に適用するのかも併せて検討する。</p>																												
<p>5 参考（選考の結果）</p>	<p>(1) 選考結果</p> <p>8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="547 1417 1361 1720"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配点</th> <th>基準点</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ニーズ・公益性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>独創性・専門性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>協働の必要性</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>事業遂行能力・実施体制</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>予算の妥当性・費用対効果</td> <td>80</td> <td>48</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>400</td> <td>240</td> <td>273</td> </tr> </tbody> </table> 	評価項目	配点	基準点	計	ニーズ・公益性	80	48	62	独創性・専門性	80	48	52	協働の必要性	80	48	55	事業遂行能力・実施体制	80	48	52	予算の妥当性・費用対効果	80	48	52	合計	400	240	273
評価項目	配点	基準点	計																										
ニーズ・公益性	80	48	62																										
独創性・専門性	80	48	52																										
協働の必要性	80	48	55																										
事業遂行能力・実施体制	80	48	52																										
予算の妥当性・費用対効果	80	48	52																										
合計	400	240	273																										

	<p>(1)選考委員のコメント</p> <p>○高齢社会が進展し、また独居高齢者の数が増え続ける今日において、柏市のような都市部においては、新しい地域福祉システムの構築が急務となっています。</p> <p>○既に社会福祉協議会を中心に実施されている取り組みですが、十分に機能していない現状を打破したい、今後さらに高まるニーズに対応したいという提案内容に、強い共感を覚えました。</p> <p>○但し、このことは、一団体あるいは行政だけで対応・解決できる問題ではありません。</p> <p>○この事案については、行政と貴団体だけの協働で取り組むものではなく、行政が主導し、社会福祉協議会や自治会等の地縁団体だけでなく、NPOなどのテーマ型の団体も巻き込んだ、新しい地域福祉のプラットフォームづくりを進めるべきだと考えます。</p> <p>(2)調整協議に向けて</p> <p>○貴団体と市との協働事業で採択となりますが、上記コメントのとおり貴団体と行政だけで解決できる問題ではないので、貴団体と同様な課題認識を有するNPOや社協・自治会等の地縁型組織を巻き込み、プラットフォームの基礎となるネットワークと協力体制の構築を目指してください。</p> <p>○その中で、提案者のようなNPOが果たすべき役割を見出し、モデルケースとなるような取組として実施してください。</p>
<p>6 参考（調整協議での変更事項）</p>	<p>○モデル地区を1箇所設定し、地縁組織とNPOの連携による地域福祉の具体的な取り組みを検討する。</p> <p>○地域福祉に対し、それぞれが異なるイメージを持っているため、ひとつひとつ確認しながら目的と方法の共有を図る。</p>
<p>7 参考（報告会での意見）</p>	<p>○一言でNPOと言っても様々な団体があるが、地縁団体とは異なる専門性や機動性を有している。これらと協働することで、地域福祉を向上させるという本来の目的を見失わないで欲しい。</p> <p>○関わる団体が多いだけに、行政として慎重になることも理解できるが、あまり協議に時間をかけすぎないように注意して欲しい。</p> <p>○モデル地区において、行政が中心となって関係者を集め、地域課題を共有し、各主体ができることを確認しあい、まずできることを実践しながら、プラットフォーム構築を進めてみてはどうか。</p>

2 既存事業の見直しを踏まえての提言

去る10月7日に、平成18年度に採択された1事業について、実施団体と担当部署、選考委員会、事務局の4者間で見直しが行われた。

その内容を踏まえて当該協働事業の次年度以降の実施について、市に提言することとした。

対象事業名	おいじたくあんしん相談室事業
実施団体名	(特活)おいじたくあんしんねっと
事業担当課	保健福祉部 高齢者支援課

既存事業の見直しのすすめかた

- 事業担当課より、協働事業報告書により事業実施状況報告(10分)
- 選考委員より、実施団体及び担当課へ質疑応答(15分)
- 採点(5分)
- 選考委員による意見交換(30分)

既存事業の見直しの概要

【事業概要】 高齢期を迎えた市民が抱えている老後の生活についての様々な不安(ライフプラン、相続対策等)に関する相談窓口を月2回開設。弁護士、税理士、司法書士、ファイナンシャル・プランナー等の専門家が、輪番制(2~3名)で対応しており、高齢者の不安・心配事に対し、ワンストップで相談に応じることができる。 また、定期的に報告会を行っており、実施団体と事業担当課で情報共有している。 なお、相談会場は、秘書広報課が所管する市民相談室を使用している。	
1 事業のすすめかたについて	○柏市の高齢者人口約80,000人に対し、年間の相談可能件数は3件×2回×12ヶ月で72件と少ない。市民ニーズに対して、質の面では十分に答えていると推察するが、ボリューム面ではまだ十分に答えきれていないと思われる。人員体制を含め、可能であれば、沼南庁舎を活用するなど、回数の増加も検討して欲しい。 ○月1回、広報かしわに掲載しているとはいえ、市民の認知度はまだまだ低いと思われる。より効果的な広報に努めて欲しい。
2 協働のありかたについて	○報告会等を定期的で開催し、実施団体と事業担当課が、情報や市民ニーズを共有するなど、きちんとした協働体制ができている。 ○相談室を利用し、後日、会を通じて専門家を紹介してもらえることは、市民にとっては利便性が高い。しかし、補助事業=団体の事業として実施しているがゆえの柔軟な対応とも言える。委託へ移行する際には、倫理性及び透明性の確保についてよく検討して欲しい。

3 次年度以降の事業実施について

○ワンストップサービスを高めるためには、他の相談事業との有機的な連携を強化して欲しい。

○また、NPOや町会でも高齢者向けサロン等を実施し、悩み事を聞くという事業を行っている。より大きなニーズに応えるためにも、市役所内だけでなく、民間事業者やNPO、町会との連携も必要。

○将来的には、高齢者相談サービスのプラットフォームの構築を目指して欲しい。

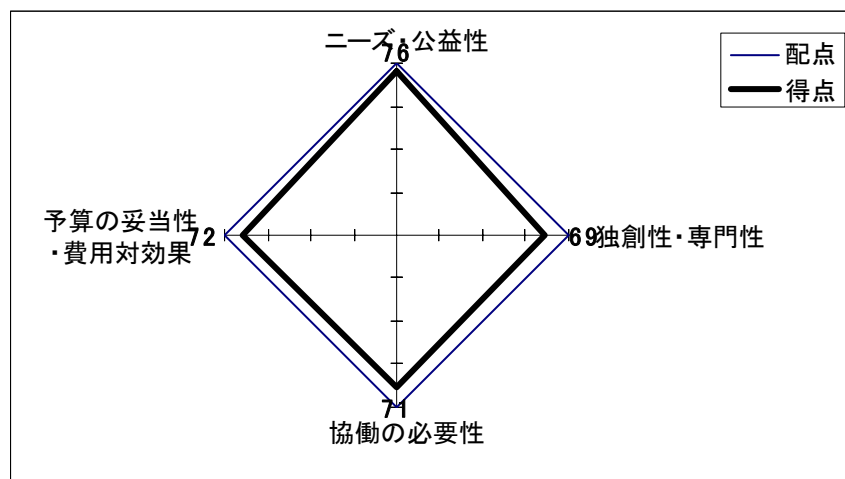
4 参考（再評価の結果）

(1) 評価結果

8名の選考委員会において4つの評価項目（配点10点、全委員計80点、合計320点）で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	得点
ニーズ・公益性	80	76
独創性・専門性	80	69
協働の必要性	80	71
予算の妥当性・費用対効果	80	72
合計	320	288

提案事業への評価	公益性が高く、今後も協働事業として実施することが望ましい。	A	5名
	多少課題はあるが、今後も、協働事業として取組んでもらいたい。	B	3名
	協働事業としてではなく、共催・後援・広報支援など、なんらかの事業協力でよいと思われる。	C	—
	今後は協働事業として実施しないほうがよい。	D	—



3 選考会・報告会及び既存事業の見直しを終えて

(協働事業提案選考委員会委員長 小松 孝之)

選考委員会においては、個々の提案の審議について、真摯な姿勢で活発な議論を行い、公明正大な審査と評価に努めてきた。また、既存事業の見直しについても、今後の事業のあり方について建設的な意見も出しあった。

かかる議論の中で注目した点について列挙したい。

(1) 今回提案のあった4件の内容は、カシニワ制度を活用した地域コミュニティの活性化と、柏市が保有する史料の有効な発信、市の男女共同参画及び子育て支援サイトの利用者拡大、そして地域で高齢者を見守る仕組みの構築となっており、いずれの提案も、多様かつ切実な地域課題に基づくものであった。

不採択となった1件の提案は、協働事業提案制度で採択すべき内容ではなく、すでに協働している担当課との協議を深める中で実施すべきものと判断した。

(2) 採択した案件のうち、1件は既に社会福祉協議会や町会・自治会等地縁団体を中心に実施されている取り組みである。しかし、高齢社会が進展し、また独居高齢者の数が増え続ける今日、柏市のような都市部においては、新しい地域福祉システムの構築が急務となっている。NPOのような新しい公共の担い手も、地域の重要な資源のひとつと捉え、連携する道を探る必要がある。

選考会で意見聴取をしたところ、担当課も同様の問題意識を持っていることを確認した。

そのため、選考委員会では、この案件については、提案団体と担当課の1対1の協働事業ではなく、地域福祉に関わる様々な団体・機関を巻き込んだ地域福祉のプラットフォーム作りに取り組むべきであると考えた。

なお、選考委員会の言うプラットフォームとは、現在、それぞれが行っている取り組みを有機的に繋ぎ、地域福祉の向上に取り組むことを意図している。

このような地縁団体とNPOの連携事例は、全国的にもほとんど見られず、難しい取り組みである。しかし、協議に時間をかけすぎず、具体のアクションの中からモデル性を見出し、全市的に広めていって欲しい。

従来の協働事業提案制度の枠組みからは外れるが、行政とNPOが、異なる立場から意見を出し合い、1つのものを作り上げるという協働の形態に期待したい。

(3) 採択した他の2つの案件についても、選考委員会で時間をかけて十分に議論を行い、事業の成果をより高めるため、提案内容の深堀りや改善等の要望・条件付けを行った。

今般、調整協議報告会において、選考会の後の調整・協議の結果を聞き、いずれの提案も選考委員会からの要望等に十分に対応し、内容の質が高まっているとともに、提案団体と担当課との信頼関係も構築されつつあり、「協働」の効果と成果を期待できるレベルに仕上がっていると感じた。

したがって、この2案件については、是非とも、貴市において「協働事業」として実現させることを、選考委員会一同、希望するものである。

(4) なお、今回の採択事業のうち、2件は地縁団体との連携が不可欠となっている。また、既存事業の見直しにおいても、将来的な事業展開として、地縁団体を含めた関係団体との連携について意見が出されている。

今後、地域課題の解決において、NPOの役割が大きくなることも予想されるが、地縁団体とNPOは組織の成り立ちが異なるため、同様の目的を有していても関係構築が難しい。

NPOが地縁団体に対しアプローチする際には、地域事情をよくわかっている職員が間に入るなど、行政の調整力も要求されることを強く認識していただきたい。

平成17年度 協働事業提案の状況（その1）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
1	農産物直売所「とばり野菜」	農産物直売所『とばり野菜』	農産物の栽培、管理、販売に農家と市民が一体となり取り組むことにより、「食」と「環境問題」に取り組む。また、農業体験を通じて、障がい者等の社会復帰と自立を促す。	障害福祉課 農政課
2	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒の具体的指導に悩む教員への支援活動	教育のあり方に戸惑い、悩む教員を対象として教育実践上の課題解決手法を学ぶ研修講座を開催する。この研修を通じ、教育理論と実践の課題を解決していく中で、教員の自信回復を図る。	指導課
3	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒スポーツ活動団体指導者連絡協議会の設立と活動	「学校教育における学習としてのスポーツ活動」と「地域における学習外のスポーツ活動」における連携強化を図り、教育効果を高める。	指導課 スポーツ課
4	NPOエコ平板・防塵マスク支援協会	協働によるまちづくりを通して、障がい者の自立を図る	公園の整備に「エコ平板・製品」を使用した環境設計を行い、障がい者の雇用確保と社会参加を通しての自立を図る。	障害福祉課 公園緑政課
5	健康麻雀倶楽部	健康麻雀コミュニティ	老化防止に役立つとされている、健康麻雀（賭けない、吸わない、飲まない）の入門講座、指導者教室、オープン戦等を通じ、健康麻雀の普及を図ることをもって、中高年の地域社会における、仲間づくり・健康づくりの実現を図る。	保健福祉総務課 健康推進課
6	クラシックライブを楽しむ会 柏支部	講演とミニコンサート 歌って脳力UP!!	脳の老化防止に関する講演会と童謡・唱歌を参加者も共に歌うミニコンサート、クラシック演奏会を開催し、クラシック音楽のライブ演奏を楽しみながら脳力アップを図る。	文化課
7	花ボラ会	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の協働による管理事業	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の維持管理を通じ、市民に憩いの場・癒しの場を提供する。	公園管理室
8	ふそう会	傾聴ボランティア員養成講座の開催	高齢者の孤独を癒す「傾聴ボランティア」の養成を図る講座を実施する。	保健福祉総務課 高齢者支援課
9	JSL児童生徒の日本語と教科学習の支援会	柏JSL学習会	外国籍の子どもたちの健全育成を支援するための「母国語及び日本語での一対一指導」による学習会を開催することにより、日本語を第二言語とする子どもたちの健全育成を支援するとともに、共生の社会づくりを推進する。	国際交流室 児童育成課 指導課
10	NPO法人 とくわ会まちづくりネットワーク	中高年のパソコン初めて勉強会	インターネットの活用を主眼に置いた入門的パソコン講習会を開催。インターネットの活用による生涯学習、自発的・主体的な仲間づくり、地域活動への参加を促し、中高年の健全なシニアライフ設計を図るとともにデジタルデバイトの解消を目指す。	情報政策室 高齢者支援課 社会教育課

平成17年度 協働事業提案の状況（その2）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
11	NPO法人 スマイルクラブ	小学校体育の授業サポート事業	小学校における体育授業に指導スタッフを派遣し、運動の苦手な子どもや障がいを持つ子どものフォローを行うことにより、児童の学ぶ意欲及び授業効果を高め、子どもの体力低下を防止する。	指導課
12	公園・緑地の管理NPO市民の会	協働による美しい緑のまちづくり実現に努力しよう	環境美化の精神に則った公園の維持管理（除草、ごみ収集、遊具点検）を実施し、市民の憩いの場・癒しの場としての公園実現を目指す。また、公園内の見回りを行うことで、公園の安全を確保する。	公園管理室
13	楽学生活協会 柏支部	『子どもの自律力を育む教育』講座の開催	ニートを生み出さない基礎づくりとして、金銭教育を切り口とした講座を開催。これにより、現実を理解し対峙することを学ぶことによる子どもの自律心向上及び働く意味を考えるきっかけづくりを図る。また、親が家庭を学習の実践場とするための方法を学ぶ機会とする。	児童育成課 社会教育課 青少年課
14	特定非営利活動法人 クリーンエコ	南部クリーンセンター周辺のごみ収集業務	南部クリーンセンター周辺において、シルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手による家庭ごみの収集を実施することにより、ごみ分別・集積所管理の徹底を促し、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	クリーン推進課
15	特定非営利活動法人 クリーンエコ	地域住民による公園、緑地管理・保全業務	緑住リフレッシュ拠点を中心とする南部地区の公園、緑地をシルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手で管理・保全することによって、人と自然が共生する環境を創造する気運の高揚を促すとともに、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	公園管理室
16	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	福祉施設への出前講座	高齢者や障がい者の入居施設を訪問し、生きがい増進と快適生活をサポートするための健康増進講座・カルチャー講座を実施する。	高齢者支援課
17	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	親子ふれあいプラザの開催	工作などの物づくりと自然観察を通じて、創意工夫や自然環境の大切さを学び、より良い人間関係の形成を目指す「親子ふれあいプラザ」を小学校低学年とその保護者を対象として開催する。	児童育成課 社会教育課 中央公民館
18	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	PT健康生活講座の開設	中高年層の病気予防・健康増進を図ることを目的とした、ストレッチ体操と健康知識を合わせた講座を開催することにより、健康保険制度の財政的負担の減少を図る。	健康推進課
19	特定非営利活動法人 手賀沼沼協会	手賀沼利用会議の開催	地域における貴重な水資源として、手賀沼を有効利用することを目的としたフォーラムを開催する。	環境保全課

平成17年度 協働事業提案の状況（その3）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
20	特定非営利活動法人 NPO 支援センター ちば	移動支援の実態調査と移動支援人材育成研修の開催	障がい・高齢化などの移動制約によって社会参加しづらい市民の外出支援としての福祉輸送サービスに関する実態調査及び市民への情報提供を実施。また、移動支援を行う団体などを対象とした研修会を開催し、移動支援活動の担い手を育成する。	企画調整課 保健福祉総務課
21	NPO法人 ひと・もの・まちづくり 柏	若年者の就労支援	若年者の雇用問題を解決することを目的に『就職相談』、『職業教育』、『情報提供』、『合同企業説明会』を実施し、「ニート」、「フリーター」の減少を図る。	商工課
23	NPO法人 ひと・もの・まちづくり 柏	団塊世代キャリア塾	団塊の世代の大量退職(2007年問題)に向けて、団塊世代の人生設計の支援を目的とした講座を開催。人生のセカンドステージに向けて、それまでのキャリアと生き方を棚卸しすることで、よき市民としてどう自分を生かしていくかを整理してもらうことにより、市民生活の活性化と市民社会に貢献する人材の育成を図る。	社会教育課 市民活動推進課
24	NPO法人 ひと・もの・まちづくり 柏	ファイナルプラン作成支援	高齢者の漠然とした不安を解消し、自分らしい老後を過ごすことを支援するために、人生の終末をきちんと準備する「ファイナルプランセミナー」を開催する。	高齢者支援課
25	NPO法人 愛と憩いと友情の館	若年無業者(ニート・フリーター)に対する就業支援教育	ニート及びフリーターに対する就業支援と親に対する支援講座を開催。これにより、講座参加者の就労意欲を高め、若年無業者の高齢化によるホームレス化を防ぎ、社会補償費及び税金の確保及び将来的な生活保護受給者の抑制を図る。	商工課 指導課
26	特定非営利活動法人 いしずえ	地域高齢者のためのナイトサロン事業	沼南「いこい荘」の空き時間(17時～21時)を利用し、地域高齢者を対象としたナイトサロンを開催。「入浴」・「食事」・「送迎」のサービスと“つどいの場”を設けることで、(主として虚弱老人が)精神的に不安になりがちな夕方から夜間にかけての安らぎの場を提供する。また、利用日以外は、「おやすみなさいコール」による安否確認を行うほか、希望者に対しては一次保護を実施。	高齢者支援課

※No.20 は選考を通過したが、提案者による取り下げのため事業実施に至らず

平成18年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円)	市の事業関係課
1	(特活)教育支援三アイの会	柏市における、教育支援活動の具体的な展開方法の研究と実践 ～学校での教育活動に参加できない児童生徒への支援組織と活動の展開～	1 不登校児童生徒の実態把握 2 教育委員会との連携による「対策協議会の設置 3 不登校児童生徒の居場所となる『夢未来塾』を開設し、学習及び生活支援活動を実施 4 教育を考えるための市民参加型フォーラムなどの開催	1,602,000 ※うち市の負担額 1,527,000	指導課 教育研究所
2	(特活)せっけんの街	子どもの未来のための食育と環境教育	循環型社会の確立を目指し、廃食油からのリサイクルせっけんづくりを小学校等における環境学習授業として協働で実施する。	597,000 ※うち市の負担額 447,000	クリーン推進課 環境保全課 消費生活センター 指導課
3	(特活)おいじたくあんしんねっと	「おいじたくあんしん相談室」の開設	1 老後のライフプラン等に関する相談窓口の開設 2 老後のライフプラン等に関するセミナー、出前講座の開催	700,000 ※うち市の負担額 520,000	広報広聴課 高齢者支援課 (社会福祉協議会)
4	(特活)NPO支援センターちば	移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催	1 移動支援団体のサービス内容の調査を実施するとともに、リスト化し市民に情報提供を行う 2 移動制約者への理解と協力を求めるリーフレットを作成し、学習会を開催	1,503,490 ※うち市の負担額 1,224,490	企画調整課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 (社会福祉協議会) 学校教育課 指導課

平成19年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（1件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	年金・労働 相談研究会	年金相談の 実施	年金窓口の恒常的な混雑の解消 と、市民満足度向上のため、既存 の相談事業との振り分けをして相 談を行う。	402,000 円 (388,800 円)	保険年金課
2	地域支援委 員会	地域子育て 支援のため の訪問相談 の実施	1 市内企業を対象に子育てに 関する制度や労務問題につ いての訪問相談 2 保育施設を訪問し、子育て世 代の仕事と家庭生活の調和につ いてヒアリング調査	780,000 円 (605,000 円)	児童育成課 保育課 商工課 男女共同参画室
3	(特活) 柏・ 地域福祉ネ ット“風の 木”	地 域 高 齢 者・介護家 族支援施策	1 介護家族講座、ふれあいヘル パー養成講座の実施 2 講座修了者を中心にした地域 でのショップ展開やヘルパー派 遣	2,910,000 円 (600,000 円)	高齢者支援課 障害福祉課 商工課
4	美しい地域 づくりの 会・花ごこ ろ	戸張地区で の環境美化 活動	1 コミュニティガーデン 2 ストリートガーデン 3 小規模公園の維持管理 4 戸張地区公園の維持管理 5 花苗の大量安価供給システム の構築	3,430,200 円 (2,572,650 円)	南部クリーンセンター 都市計画課 公園管理室 道路維持課 下水道維持課 (みどりの基金)
5	CAPなの はな	安全教育支 援事業	子ども・親・地域に住む大人・教 職員を対象にCAPワークショップ を実施し、子どもの心と体への 暴力防止を図る。	3,160,000 円 (2,530,000 円)	生涯学習課 ◎学校安全対策室 指導課
6	(特活) 牧場 跡地の緑と 環境を考え る会	中原ふれあ い拠点ー防 災公園共用 地利用プロ ジェクト	中原ふれあい防災公園隣接の共用 地利用について、住民アンケート 調査や近隣の公共施設の実態調査 等を行ってとりまとめ、地域拠点 施設の提案をする。	747,000 円 (747,000 円)	企画調整課 広報広聴課 公園緑政課 保健福祉総務課

◎…事業の主担当課

平成20年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円) 市負担分	事業関係課
1	若美会	小中学生への 日本伝統芸能 の伝承	踊を通して日本の伝統芸能 を体験し、礼儀作法や人 に対しての思いやり及び美 しい姿勢等を教え伝える。	520,000 500,000	企画調整課 市民活動推 進課
2	特定非営利活 動法人 NPO共生	柏市介護家族 応援センター の開設	介護者を抱える家族等を対 象に、行政機関や民間事業 者と連携して適当なサービ スのコーディネートやサ ポートを行う。	1,531,000 696,000	介護保険管 理室 地域包括支 援センター
3	特定非営利活 動法人 百尺竿頭	医療費削減と 健康維持管理 のための太極 拳ボランティア 養成講座	自発的な健康管理を誘発す るため、健康体操として太 極拳を指導する地域リー ダーを養成し、効果測定等 を行う。	800,000 500,000	保険年金課 地域健康福 祉課
4	特定非営利活 動法人 アロハート	カウンセラー 養成講座	児童虐待や介護苦による殺 人自殺、心身疾患などの悩 みを抱え込む前に、身近な 地域で話を聴き心を支える カウンセラーを養成する。	275,000 225,000	保健福祉総 務課 高齢者支援 課
5	特定非営利活 動法人 アロハート	(仮称) お休 み処	商店街の空き店舗等を利用 して、軽飲食の提供や買物 や荷物運搬サービス、ミニ ギャラリーやおしゃべりサ ロンを運営し、地域のコ ミュニケーションや商店街 の活性化を図る。	2,170,000 1,200,000	商工課 保健福祉総 務課 高齢者支援 課 障害福祉課 (社会福祉 協議会)
6	スポーツ吹矢 柏吹会	健康スポーツ 「スポーツ吹 矢」体験講座	市民参加と健康づくりの促 進のため、老若男女問わず 取り組める、腹式呼吸を活 かしたスポーツ吹矢の体験 講座を行う。	356,000 306,000	市民活動推 進課 広報広聴課 生涯学習課 スポーツ課

平成21年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案 団体名	提案事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負 担額)	事業関係課
1	(特活) 権利擁護 あさひ	がん患者な どの中間緩 和ケアハウ ス	①がん患者（独居及び県内外 からがん治療に来る人も含 む） ②高齢者や障害者の独居で重 篤な疾患を持つ人 ③退院後，次の施設や住居ま での短期宿泊所の必要な人 に対して宿泊所及びケアを提 供するもの	36,624,000円 (11,320,000 円)	◎保健所総務企画 課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課
2	(特活) 情緒教育 研究所 柏支部	不登校・引 きこもりへ の解決と予 防対策講 座・個別相 談	小・中学校や近隣センター等 において，保護者及び教員を 対象としたEQ概念による 「不登校・引きこもりの解 決」のための講演会や個別相 談を定期的を開催する	3,850,000円 (2,986,000 円)	◎教育研究所 児童育成課 保健所保健予防課

◎…事業の主担当課

平成22年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	(特活)スマイルクラブ	子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室(鉄棒上達教室)	①鉄棒上達教室スタッフ養成研修会の実施(鉄棒上達教室に参加するスタッフ10名の事前の実技研修を行う) ②鉄棒上達教室の実施(市内の小学校5校で1回60分の教室を週2回で合計8回実施する)	1,369,000円 (1,369,000円)	◎スポーツ課 指導課
2	グループSEC(地域で‘性共育’をつくる会)	学校における「デートDV」防止教育プログラム実施事業	中高生を対象に、参加型のロールプレイやグループ討議を展開しながらワークショップ形式の講座を実施する。	300,000円 (300,000円)	◎学校保健課 指導課 男女共同参画室
3	ワーカーズ・コレクティブういず	エン結び(地縁・志援・エンパワーで繋げる人の援)	①松葉地区の高齢世帯・単身高齢者約2000人への声かけ訪問を行う。 ②多種多様なニーズに合わせた講座や介護予防教室を開催する。	1,650,000円 (1,000,000円)	◎福祉活動推進課
4	(特活)福祉サービスかしわ市民の会	移動困難者(身体障がい者、介護認定者)の福祉運送	自宅に籠もりがちな移動困難者の移動を、セダン型マイカーでサポートする。24時間休日なしの運用で、困りごと相談にも応じる。	2,500,000円 (400,000円)	◎保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 交通政策課

◎…事業の主担当課

<平成23年度までの実績>

年度	提案件数	事業実施件数
平成17年度	26	4
平成18年度	4	2
平成19年度	6	1
平成20年度	6	0
平成21年度	2	0
平成22年度	4	2
平成23年度	0	0

